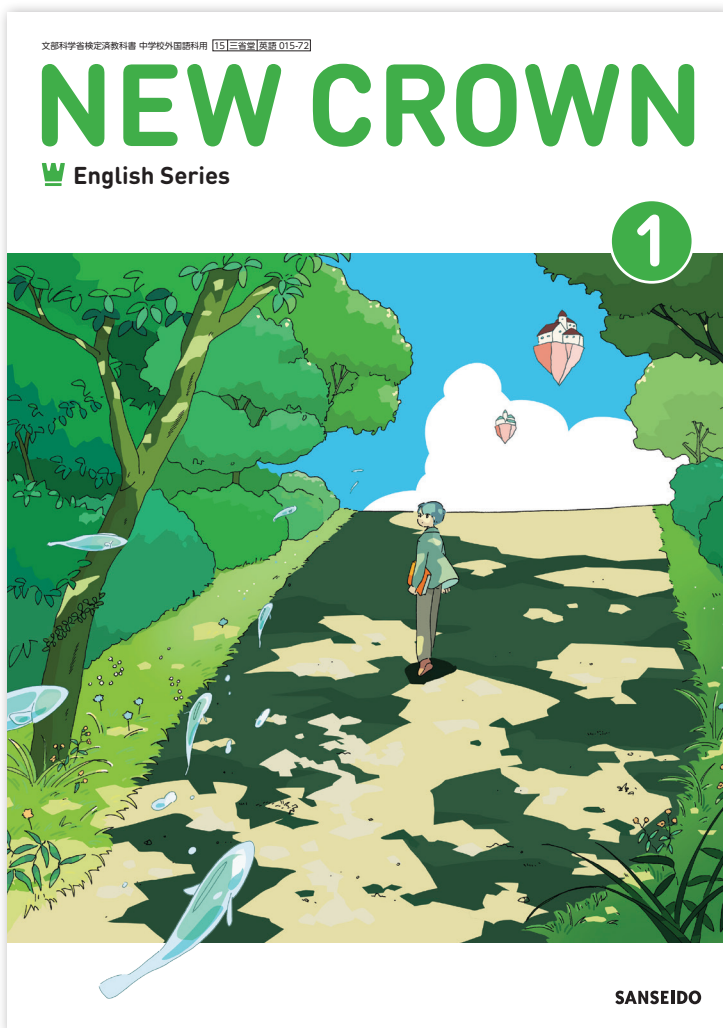


# NEW CROWN

## 指導と評価



### もくじ

NEW CROWN 指導×評価	2
知識・技能	4
Q&A ①	5
思考・判断・表現	6
Q&A ②	7
主体的に学習に取り組む態度	8



ウェブサイトも  
ご活用ください!



[https://tb.sanseido-publ.  
co.jp/07ncpr/](https://tb.sanseido-publ.co.jp/07ncpr/)

# NEW CROWN 指導 × 評価

## 目標に向かって指導し、評価できる教科書の構成

NEW CROWN は、**レッスンの最後に置かれた「Goal Activity」**に向かって、とびらから段階的に指導していく構成になっています。Goal Activity には、「話すこと [発表]」「書くこと」「読むこと」の3つの活動があり、それぞれのゴールを達成するための**学習プロセスに合わせたレッスン構成**とすることで、レッスンの目標となる言語活動に向けて最適な指導ができるようになっています。

### Lessonの構成 例 2年 Lesson 5 話すこと [発表]

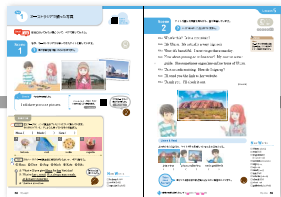


#### 学びの見通しをたてる

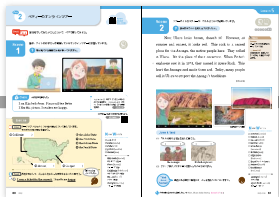
##### とびら



##### Part 1



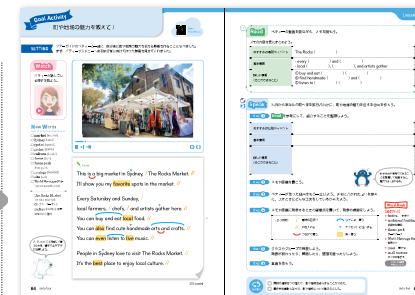
##### Part 2



#### 単元目標

海外からの旅行者に 町や地域を訪れてもらうために、おすすめの場所やイベントについて、複数の詳しい情報を加えてながら、まとまりのある内容を話すことができる。

#### Goal Activity



単元の流れ

言語活動

- ◎動画を観て、単元の題材について興味・関心を高める。
- ◎単元の目標を確認する。

##### Goal Activity

複数の詳しい情報を付け加えて、まとまりのある内容を話すことができる。

言語材料

- Small Talk**
  - ◎既習の語句・表現を用いて、Partの内容に関連したテーマについて即興で話す。
    - Part 1 旅行に行ってみよう国について
    - Part 2 旅行先でしてみようことについて
- Scene 2**
  - ◎英文を聞いたり、読んだりして、話されている内容の概要や要点を捉える。
  - ◎Goal Activity で使える文章の構成と語句や表現を学ぶ。
    - Part 1 It's actually .... / How about ...? など
    - Part 2 名所を紹介するときの文章の構成や表現
- Think about Yourself**
  - ◎Part で学んだことを参考に、事実や自分の考えを整理して伝える。
    - Part 1 海外から日本に来た旅行者に紹介したい場所
    - Part 2 身近にある建物や場所についている愛称

##### 〈動詞 (show など) + A + B〉

- ◎基本文で示された言語材料の特徴や決まりを理解する。
- ◎基本文で示された言語材料を用いて、話の内容を聞き取ったり、自分のことなどについて話したり、書いたりする。

##### 知識・技能

定期テストなどの評価の場面で、言語材料の特徴や決まりを理解した上で、課題や状況に合わせて、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりできるかどうかを測る。

評価タスク例 p.4

##### Side Story



##### Small Talk Plus



- ◎トークテーマについてやり取りする。

##### トークテーマ

Where is a good place to visit in our town?

##### Tips!

聞き手が理解しやすいように、話す順序を工夫する。

##### 〈how + to + 動詞の原形〉

- ◎〈how + to + 動詞の原形〉を用いて、自分のことについて話したり、書いたりする。



### 指導書には評価のための素材を豊富に収録!

教師用指導書 (Teacher's Manual) に収録されているワークシートを活用することで、教科書の進度に合わせて評価を行うことができます。

#### 例 Lesson

- ・文法事項・文構造などの知識を活用する力を確認するための問題
- ・Goal Activity [Read] と類似した構成と内容の英文

#### Take Action!

- ・Listen と類似した場面と内容のリスニング素材
- ・Talk と類似した場面と内容のロールプレイシート
- ・Read と類似した場面と内容のテキスト

評価計画 例

主体的に学習に取り組む態度  
単元の目標 (Goal Activity で取り組む活動) を確認させ、単元を通して身につけたことや取り組みたい課題を、生徒各自に考えさせる。

##### 思考・判断・表現 / 主体的に学習に取り組む態度

Goal Activity と類似した評価課題を用意し、パフォーマンステストを行い、評価する。「自己調整」については、単元のはじめに立てた目標や課題について「ふり返りカード」に記述していることや、学習に取り組む様子を観察し、評価する。

評価タスク例 p.6

話すこと [発表]

# 評価の観点と事例

## 知識・技能

### 何を評価する？

外国語科における「知識・技能」とは、音声、語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解していること（＝知識）、それらを課題や状況に合わせて、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりできること（＝技能）を意味します。

知識の中でも、語彙、連語、慣用表現や文構造、文法事項については、学習指導要領が現行版に改訂された際、分量が著しく増加したことから、その指導と評価方法の改善が必要とされましたが、学習指導要領で明示される項目数が比較的少ない「音声」や「言語の働き」についても、その内容・項目を具体化・体系化して、適切に年間指導計画に盛り込むことも重要です。NEW CROWNでも、音声については、個々の発音はもちろん、音変化、強勢、イントネーション、区切り（トーン・ユニット）などの英語らしさの特徴を学ぶ活動が体系化されています。

また、言語の働きについても、例えば「話すこと [やり取り]」の活動で、会話の場面や状況と言語の働きを組み合わせさせたタスクを積み重ね、「生きて働く知識・技能」の指導と評価が体系的・計画的にできるように設計しています。

### どのように評価する？

NEW CROWNの2年 Lesson 5を例にみましょう。Part 1の言語材料は、〈動詞（show など）+ A + B〉で、この知識・技能を「書くこと」で評価する場合、下のような評価課題が考えられます。生徒が書いた文から、「知識」は語順と意味関係（A＝誰に、B＝何を）を理解していることを、「技能」は言語材料を用いて、適切に自分の考えを伝えていることをそれぞれ評価します。


なお、このように、場面や状況を踏まえて、伝える内容に適した文法や語句の知識を活用し、表現する技能を評価するのであれば、指導においても、Part 1のExerciseなどを活用し、その言語材料を使う場面や状況を設定することが重要です。

## 評価例：NEW CROWN 2年 Lesson 5

### 評価タスク

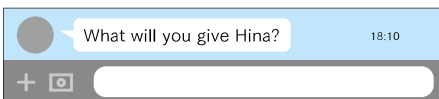
来月引越す友だちの送別会で、プレゼントを渡すことになりました。贈るものを考えて、別の友だちからのメッセージに返答する文を書きなさい。

引越す友だち



**佐藤 陽菜**  
 ・テニスを習っている。  
 ・緑色が好き。

メッセージ画面



What will you give Hina? 18:10

### 評価規準

	知識	技能
書くこと	〈動詞（show など）+ A + B〉の特徴や決まりに関する事項を理解している。	贈るものについて、〈動詞（show など）+ A + B〉などを用いて、事実や自分の考えを書く技能を身につけている。

### 評価基準

A：8割以上が正解

B：5割以上が正解

C：正解が5割に満たない

※割数は、評価タスクの内容や数に合わせて変更する。

**解答例** I will give her a towel.  
I'll give her a green T-shirt.

## 評価

## Q&A

# 評価について 教えて！



今井 裕之  
（関西大学）

評価の枠組みが変更されて数年が経ちました。先生がたによく聞かれる質問をいくつか取り上げ、今井裕之先生にお答えいただきます。

### Q 1つの単元で、すべての領域を評価する必要がありますか？

**A** NEW CROWN のレッスンには、「話すこと [発表]」「書くこと」「読むこと」いずれかの Goal Activity（単元の目標となる言語活動）が設定されていて、思考・判断・表現の評価は Goal Activity に準じた言語活動を通して行います。1 単元につき1領域の思考・判断・表現の評価を行う設計ですので、Take Action! で評価する「聞くこと」などとあわせて、すべての領域の評価が揃うのは学期末になります。知識・技能の評価も、指導の直後にすぐ評価するのではなく、定期テストで総括評価するなど、総じて評価しすぎにならないよう留意しましょう。

### Q 「流暢さ」はどの観点で評価するのでしょうか？

**A** 「流暢さ」は「正確さ」と同様に、知識・技能になるでしょう。ただ、「流暢さ」をどう定義するかは問題です。発話の速度や不自然な沈黙の有無だと捉えられることがよくありますが、他にも文法、語彙、発音の適切さなど、話者間の理解しやすさに寄与するさまざまな要素が関わる、総合的な概念といえます。これらの「流暢さ」を指導目標とすることには意義がありますが、評価の際は、不自然な長い沈黙を避ける工夫をするなど、話者として協働的な様子を評価するのがよいでしょう。

### Q 5つすべての領域で「知識・技能」をテストするのは大変です。何かよい方法がありますか？

**A** 語彙や文法の知識は、必ずしも特定の技能に限定されるわけではありません。一方で、「技能」を切り離さず「生きて働く知識・技能」としてすべての領域で評価する方がよいというのも確かです。例えば、語彙や文法は、筆記テストの「聞くこと」「読むこと」「書くこと」のどの問題の中でも評価できます。音声であれば、授業中の音読活動を通して、長期的に観察・評価することができます。その場合、生徒が音読する中、先生が巡回しながら個々の発音の特徴を分析・指導し、評価します。

### Q 語彙の知識は、単語テストで十分でしょうか？

**A** 英語のつづりと意味を問う単語テストだけでは、音声知識や文中での使われ方など、「生きて働く」ための語彙知識を評価できていたとは言えません。知識の不活性化問題（知っているけれど使えない）を招かぬよう、実際に発表させたり、聞かせたりしながら評価することが適切です。音声の評価は、音読活動を通して行うほか、パフォーマンステストの際に「思考・判断・表現」とあわせて「知識・技能」として評価することもできます。

### Q 文法事項の「知識・技能」の定着が不十分な中で、言語活動を評価することに抵抗があります。

**A** 文法エラーが多い発話ばかりのパフォーマンステストを経験すると教師も落胆するものですが、エラーだらけのパフォーマンスを「学習の結果」ではなく「学習のスタート」だと考えましょう。習いたての文法を使い始めたばかりです。大切なのは、エラーに気づいて、修正してリトライする機会を指導に組み込むことです。また、発話できない生徒には、タスクのレベルを下げると、発話できるようになる可能性があります。

## 思考・判断・表現

### 何を評価する？

外国語科における「思考・判断・表現」の評価は、目的や場面、状況を設定した言語運用課題を通して、日常的・社会的な話題・内容について理解し、他者と自分の考えなどをどの程度表現し合うことができるかを評価します。「知識・技能」が言語面の「正確さ」の評価であるのに対し、「思考・判断・表現」は目的や場面、状況に沿った課題遂行の「適切さ」の評価と考えられます。課題遂行＝パフォーマンスであり、Can-Doに基づくパフォーマンステストを用いて評価します。

### どのように評価する？

#### 教科書の活動とパラレルな課題で評価する（聞くこと・読むこと）

「聞くこと」「読むこと」は、ペーパーテストで評価します。指導時の言語活動に類似したスクリプトやテキスト（いわゆるパラレルな素材）を用意します。思考・判断・表現の評価課題の作成の重要なポイントは、それらを聞いたり、読んだりする際の「目的や場面、状況」を設定することと、それに応じる設問を配置することです。「読むこと」のAを目標とする場合を例にあげると、映画館のウェブサイトから「必要な情報を読み取る」ための目的や場面、状況（例：ホラー好きの友だちを映画に誘う）を設定し、ウェブサイトを読んで、必要な情報を採るような課題を与えることが考えられます。

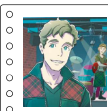
#### パフォーマンステストで評価する（話すこと・書くこと）

パフォーマンステストを行う際は、まず、授業で指導する言語活動を参考にしながら、評価課題の①目的や場面、状況、②話題やテーマ、③タスク（何を話す・書くのか）を決めて、評価規準を設定します。さらに、実施人数やテスト時間、準備・メモなどの支援の可否を決めて、評価課題を確定します。そして、評価規準となるルーブリックを作成します。なお、思考・判断・表現を評価することを基本としつつ、並行して知識・技能のルーブリックを作成し、言語面の正確さを評価することも可能です。

## 評価例：NEW CROWN 2年 Lesson 5

### 評価タスク

ブラウン先生の弟ピーターが、初めて日本に来ることになりました。ピーターのプロフィールを参考に、あなたの住んでいる町や地域にある場所やイベントを1つ選び、詳しい情報（どんなところか、何ができるかなど）をつけ加えながら、紹介しなさい。



Peter Brown

- ・大学で音楽を学んでいる。
- ・日本食が大好き。甘いものは苦手。
- ・最近の趣味は、カメラで写真を撮ること。

### 解答例

I suggest "Midori." It's a small Japanese restaurant near the station. There, you can eat fresh fish in season. The chef is a fisherman. He catches the fish in the morning and cooks delicious dishes.

### 評価規準

思考・判断・表現	
話すこと 【発表】	海外からの旅行者に町や地域を訪れてもらうために、おすすめの場所やイベントについて、複数の詳しい情報をつけ加えながら、まとまりのある内容を話すことができる。

### 評価基準

条件① おすすめの場所やイベントについて、複数の詳しい情報（どこにあるか、何ができるかなど）を述べている。  
条件② 読み手が理解しやすい構成や伝え方になるように工夫している。

- A：①②を満たしている  
B：①を満たしている  
C：①②とも満たしていない

**Q** パフォーマンステストはいつ行えばよいのでしょうか？

**A** 単元末の言語活動が「書くこと」「話すこと」の場合は、単元を終えたタイミングでパフォーマンステストを行うことができます。その活動の目標に基づいて、類似のタスクを作成します。時間がかかる「やり取り」のテストは、生徒に十分なフィードバックをすれば、学期に一度程度で十分です。複数回できるのであれば、フィードバックを指導に生かすために、学期のはじめに実施するのもよいかもしれません。

**Q** パフォーマンステストでは、単元で取り組んだことを評価するので、Cがつくことがほとんどないのですが、それでよいのでしょうか？

**A** 指導の結果が生徒のパフォーマンスに成果として表れ、全員がB評価以上なのであれば、すばらしいことです。観点別絶対評価では、A、B、Cに一定数を割り振る必要はありません。ただし、大半の生徒がA評価になる場合は、指導目標や内容、B評価の基準（＝評価規準）を見直すべきかもしれません。具体的には、評価の基本構成は変更せずに、話させたり、書かせたりする話題やテーマのレベルを少し難しいものにするなどが考えられます。

**Q** すでに「自己調整」できている生徒とそうでない生徒では、調整力の伸び幅が異なります。この2人の違いをどう評価したらよいのでしょうか？

**A** 「自己調整」は、生徒のふり返りの分析と教師の学習行動の観察を、評価基準に基づいて評価するので、各自の伸び幅の差は原則的に無関係です。主体性が著しく高まった生徒を高く評価したくなりますが、あくまで基準に基づき評価します。大半の生徒が基準を満たすようになれば、より高度な自己調整能力の育成を目指し、学習目標の設定、学習状況のモニターと調整、成果のふり返りができるように支援することが考えられます。

**Q** パフォーマンステストは「内容面」を評価すると言いますが、具体的に何を評価したらよいのでしょうか？

**A** 左ページの例にある、評価タスクを完遂するための「条件」を「内容面」と考えてください。つまり、「どんな場所やイベントか」「そこでできることは何か」を伝えられたか否かを「内容面」と捉えて評価します。目的や場面、状況に対して適切であれば、それ以上の内容の「質」を評価することはありません。なお、授業で調査活動などをさせて、その結果の発表を評価する場合はその限りではありません。

**Q** パフォーマンステストで「思考・判断・表現」の評価がCの生徒を、限られた時間の中でどのように支援すればよいのでしょうか？

**A** 「思考・判断・表現」の評価が「C、努力を要する」の場合は、  
①テスト結果を見直し、満たせなかった評価条件について、内容を修正させてリトライさせることが考えられます。  
②「知識・技能」が不十分で「思考・判断・表現」の条件を満たせない（課題が難しく英語力が追いつかない）場合は、身近な話題に変更するなど、課題のレベルを下げることも考えられます。いずれにせよ、「失敗」で終わらせない指導・支援のしくみを作りたいですね。

**Q** 「主体的に学習に取り組む態度」は、「思考・判断・表現」と一体的に評価すると言われていますが、具体的にどのように「一体的」に評価するのでしょうか？

**A** パフォーマンステストは「思考・判断・表現」を評価しますが、その課題を完遂できれば、必要な「粘り強さ」「自己調整」があり、主体的学習ができたことと解釈します。ただ、自己調整しても課題を完遂できない場合もありますが、その際は「ふり返り」の記述と生徒の行動観察を加味し、「思考・判断・表現」がCでも、主体性はBとすることができます。

## 主体的に学習に取り組む態度

### 何を評価する？

「主体的に学習に取り組む態度」は、「外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている」ことを測ります。目的や場面、状況などに応じた言語活動を「コミュニケーション」と捉えるならば、「思考・判断・表現」の活動に取り組む態度が評価の対象だと言えます。また、「主体的に学習に取り組む態度」には、「粘り強さ」と「自己調整」の2つの側面が互いに関わるものと捉えられていることも併せて考えると、その評価は、(単元末や学期末の)言語活動に到達する過程において、「粘り強く」「自己調整」しながら学習に取り組む様子を評価するのが適切であることがわかります。典型的には、単元末の言語活動の終了時やパフォーマンステスト時に、「思考・判断・表現」の評価と一体的に「粘り強さ」を評価するとともに、単元のはじめに立てた目標や学習計画を踏まえて言語活動をうまく遂行できたかななどを「ふり返しシート」でふり返らせることで「自己調整」を評価することが考えられます。

### なぜ評価に「ふり返し」が必要か？

外国語科での「思考力、判断力、表現力」の育成過程として、①コミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する、②目的に応じてコミュニケーションの方向性を決定し、見通しを立てる、③具体的なコミュニケーションを行う、④言語面・内容面で自ら学習のまとめとふり返しを行う、といった流れが学習指導要領に示されています。この過程は、以下の自己調整学習の3要素を踏まえており、単元構成が自己調整の学習過程と重なっています。

- (1) 目標設定による動機づけ
- (2) 学習状況のモニターと学習方略の活用
- (3) ふり返しとパフォーマンスの修正や改善

このことからわかるように、ふり返しは「自己調整」に不可欠な要素であることから、ふり返りの実践が、「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価の両方において重要な役割を果たしています。

## NEW CROWN についてもっと知りたい方は…



<https://tb.sanseido-publ.co.jp/07ncpr/>

この資料の内容に加え、**編修趣意書**、**指導・学習内容一覧**、**デジタル教科書(教材)の体験版**など、さまざまな情報を掲載！

### 主な資料

- ・編修趣意書
- ・指導・学習内容一覧
- ・検討の観点と内容の特色
- ・内容解説資料
- ・別冊 しくみと使い方
- ・別冊 小中連携
- ・教師用指導書ダイジェスト など